

# 日本のジェノグラム

早樫 一男

7

## お家騒動

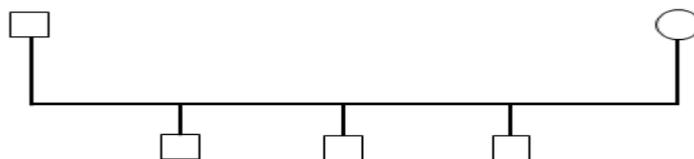
元々は、江戸時代、大名家を巡る内紛を「お家騒動」と言ったとのこと。最近では、大きな企業や著名な家族の内部構造をマスコミは「お家騒動」と呼んでいます。

その多くは、相続や後継者のなどの課題と関連しており、「パワー（決定や支配、お金など）」の伝承の課題とも言えるでしょう。ちなみに、「お家騒動」をテーマに研究している人もあるとのことですから、非常に興味深いテーマのようです。

## ジェノグラムから考えると…

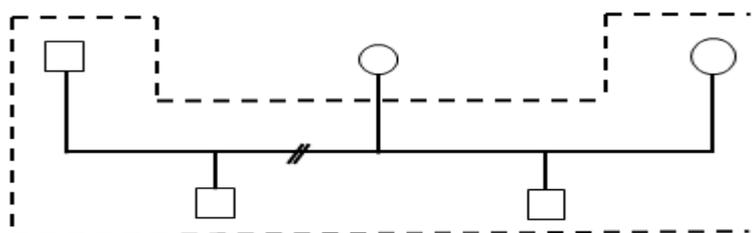
キーワードは親の子どもに対する「偏愛」です。特定の子どもに対する「親の肩入れ」と言えます。夫婦間の葛藤が背景にあることが多く、夫婦サブシステムの機能不全の影響を子どもサブシステムも受けてしまうということになってしまいます。きょうだい間での葛藤が生じてしまうのです。

## お家騒動 その1



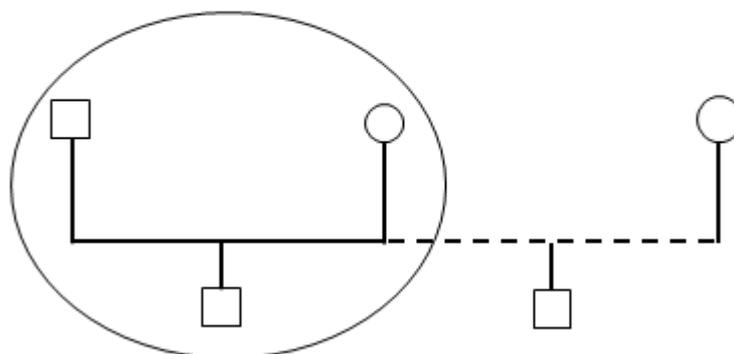
ジェノグラム（その2）は（その1）のバリエーションと言えるかもしれません。親子の間に存在する実の関係と義理の関係が複雑に絡み合っていることから、家族のドラマが展開します。

## お家騒動 その2



ジェノグラム（その3）はさらにバリエーションです。この場合、「認知」が大きなポイントになります。

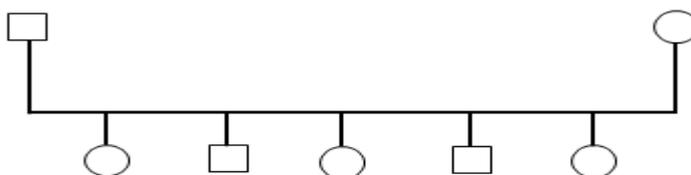
## お家騒動 その3



いずれにしても、これらの家族では、相続や後継に関する大きな課題が浮上してきても不思議ではありません。

(その4)のジェノグラムは、最近話題になっている家族(企業)です。会社運営を巡って、父親と長女が対立しています。そして、父親側には長男と母親、長女側には次男、次女、三女がついていると言われています。

## お家騒動 その4



この家族の対立の構造を考えた場合、「親役割」と「忠誠心」がキーワードになると思います。長女は、多忙な両親に代わって、妹弟の世話をするといい「親役割」を担ってきたのではないのでしょうか。そして、妹弟から言えば、世話になった長女へ「忠誠心」が芽生えても不思議ではないということです。

また、会社の幹部も「忠誠を誓う」ということに巻き込まれているのは興味深いものです。お家騒動の場合、「忠誠心」もその裏側に潜むキーワードになります。

ところで、長男にも長女にも父親の名前の一字が使われています。長男・長女に対する親からの期待が込められていたのかもしれませんが。また、長男・長女には、親の思いを受けた後継者としての役割意識が育まれていったのでしょうか。

### 家族情報とジェノグラム

「あらゆる家族情報を手に入れている、知っている」というのは当事者の家族以外には起こりえないことです。だからと言って、家族のことが何も分からないというものでもないと思います。限られた情報からでも家族に怒りうる可能性を考えてみることを大切にしたいものです。

そして、家族のことを考える話題に出会えば、まずは、ジェノグラムを作成してみて、想像力を活性化させましょう！

(つづく)